

# ベア・ロジコ株式会社

## 食品に特化した物流体制を構築 コンプライアンス経営を実践し 安全、高品質、環境対応を実現する

終戦後の食糧難を救うため、山形のお米や農産物を関東方面に運んだことを契機に  
運送事業へ進出し、食品専門の物流企業へと成長を遂げたベア・ロジコ株式会社。  
現在、同社は食品の物流業務全般を手がけると共に、新たな事業にも積極的に進出。  
またコンプライアンス経営により、事業の安全、高品質、環境対応を実現している。



① ベア・ロジコ株式会社 本社  
② ベア・ロジコのロゴマーク  
③ 代表取締役社長 熊澤 貞二 氏  
④ ⑤ ベア・ロジコ株式会社 上山事業所  
上山低温貯蔵庫では、食品の輸入原料の通関・  
保管（保税蔵置場）を行っています。

の物流事業における礎を築き上げる。その後、地元運送会社を譲り受けるかたがで、本格的に運送事業を営むようになった。

戦後の復興期を迎えると、さらに食材需要は高まっていく。同社は農産物に加え、牛や豚の生体輸送を開始する。また冷凍・冷蔵技術の進展に伴い、生産地で食肉加工が施せるようになると、いち早く冷凍・冷蔵車を導入。定温輸送サービスを提供することによって、着実に業績を伸ばしていった。さらに仙台と名古屋に営業所を開設すると共に倉庫事業を展開するなど事業を拡大。そして創業40周年を迎えた1994年に、社名を現在のベア・ロジコに改称し、経営も二代目社長の熊澤貞二氏に譲り渡した。また同年には、県内に上山低温貯蔵庫を開設し、食品の輸入原料の通関業務や保管（保税蔵置場）業務、輸送業務も手がけるようになった。

### 確かな経営基盤を築き上げ 新たな事業へも果敢にチャレンジ

現在、同社では仙台・名古屋営業所を拠点として、業務用の冷凍食品やお菓子、農産・畜産加工食品などの保管から流通加工、関東・中京方面への幹線輸送を行っている。またお菓子の原料や、清涼飲料水の糖化製品（食品甘味料）の保管、輸送業務を担うなど、荷主企業の原料調達部門としての役割も果たしている。さらに県内のコンビニ配送も請け負うなど、食品に特化した物流企業へと成長を遂げた。

「当社は創業当時から食品輸送を手がけ、その専門性を高めながら付加価値のあるサービスを提供してきました。早くから冷凍・冷蔵車を導入し、また倉庫事業へ手を広げたのもお客様の多様な物流ニーズに応えるためです。他社と差別化を図れるメニューがなければ、お客様に当社を選んでいただけませんからね」

### 終戦直後の食糧難を救うため 自ら運送事業に進出する

山形盆地のほぼ中央、東に蔵王連峰を望み、西に霊峰月山を仰ぐ天童市。将棋駒の生産地として知られる同市は、豪雪地域ながら県内では比較的積雪量が少なく、山形市のベッドタウンとして発展してきた。また山形新幹線と東北中央自動車道が市内を縦断すると共に、山形空港も隣接するなど交通の便にも恵まれている。

そんな同市に本社を構えるベア・ロジコ株式会社が、運送事業を始めたのは終戦間もない頃だったという。当時、日本は未曾有の食糧難に直面していた。特に都市部は深刻で、多くの人が食糧不足に苦しんでいた。そこで県内で米穀の販売業を営んでいた先代社長は、地元の運送会社のトラックをチャーターし、山形産のお米や農産物を関東方面へ運ぶ事業に乗り出す。また、これを機に復路で金属部品を山形へ運ぶなど、今日

と語る熊澤社長。こうした独自の経営方針は先代社長から受け継がれ、今なお躍進を続ける同社の原動力となっている。その証拠に熊澤社長は新たな事業にも意欲的だ。その一つがトランクルーム事業への進出である。同社は2001年に押入れ産業の加盟店となり、この事業をスタートさせた。これまで企業間取引、郊外型の運送事業を展開してきた同社だが、新たに一般消費者を対象にしたサービスを提供することで、収益性の幅を広げる狙いがあるという。「もともと都市部を中心に成長してきたトランクルームですが、地方都市にも、そのニーズが生まれてきました。そこで当社では、これから山形市の中心街にトランクルーム事業を展開していきたいと考えています。例えるならコンビニ感覚で利用できる利便性の高いトランクルーム。企業が成長していくには、こうした新しい事業にも積極的にチャレンジしていく必要があるのです」

さらに熊澤社長は、2006年にレンタルパレット事業の県内デポも開始する。サプライチェーン全体で物流の効率化・省資源化が実現できる共通パレットは、当初、飲料・食品メーカーで採用されていたが、今では多くの物流事業者間で活用され



- 1 2001年に押入れ産業の加盟店となり、トランクルーム事業をスタート。今後は山形市内での展開も計画中。
- 2 3 2006年にレンタルパレット事業に進出。共通パレットの回収、再生、保管、配送を行っています。
- 4 白クマは同社のマスコットキャラクター。物流事業にける想いをデザインに採用。
- 5 輸送安全管理の取り組みを従業員が見られる場所に提示しています。
- 6 「事故ゼロチャレンジ」運動の記録用紙
- 7 「大型トラックの乗務員として、常に神経を使い乗務する上で、ギガの広い室内スペースは乗り心地が良く、助かっていますね」とドライバーの古頭康司氏
- 8 本社倉庫で菓子類の保管/発送業務を行っています。

ている。同社でも共通パレットを活用していることもあり、県内で取り扱われる共通パレットの回収と再生、保管、配送業務を引き受けることにした。

## コンプライアンスは経営の最重要課題

新たな事業活動の促進と共に、近年、熊澤社長が精力的に取り組んでいることがある。それは企業のリスクマネジメントとして、社内にコンプライアンス体制を敷くこと。同社では社員の労働環境を整備することはもちろん、安全運行の徹底に余念がない。

ハード面においては、同社の運行形態にカスタマイズしたベア・ロジコ運行支援システムを構築。デジタコと連動した機能により、ドライバーの運転操作や車両のメンテナンス状況をきめ細かく管理し、

安全運行に役立っている。また長距離運行が中心となる同社では、車両の位置情報や出発・到着時間を確認するなど、定時運行の励行にも貢献しているそうだ。さらにソフト面においては、人材の育成に注力しているという同社。独自にドライバーズ・ライセンス制度や社内運転免許制度を設け、ドライバー一人ひとりを5段階で評価し、運転情報に基づいて安全運転に必要な技能や知識を指導している。その成果もあって、現在、同社の無事故記録は1200日間以上にも及ぶという。熊澤社長は、物流企業にとってコンプライアンスは、経営の最重要課題だと語る。「企業が法令を遵守するのは当たり前のこと。さらに法令では定められていない社会上の倫理やモラルを社内で定め、それを社員に周知徹底させることが、経営リスクの予防と回避につながります。

本来、これこそがコンプライアンスの目的なのです。我々物流企業は、公共の道路を利用することで事業が成立しているわけですから、法令やモラルを厳格に守ることが使命なのです。またコンプライアンスは、安全運行や品質の向上、環境対応に貢献するばかりではなく、お客様の信頼を獲得する最大のファクターでもありますからね」

また同社では、地域社会貢献活動の一環として、2003年より介護タクシー事業にも参画している。高齢者や障害者を対象に自宅や病院、施設などへの送迎サービスを提供しているのだ。この事業は、以前、熊澤社長が障害者のスポーツ大会にボランティアとして参加したことを契機に、地元のトラック協会の青年部で協議してスタートさせたという。物流事業者として、できる限り地域の福祉を支援する、

これも熊澤社長の経営者としての信念である。

## 大型トラックギガの耐久性、高品質、省燃費性能に満足

同社の安全、確実な長距離輸送を支える大型車の約半数が冷凍・冷蔵車である。食品輸送は厳密な温度・衛生管理が求められるだけに、熊澤社長はつねに最良の車両を選んで導入してきたという。

「長距離輸送を手がける当社としては、何よりも安心して使用できることが車両の選定条件になります。その点、昔からいすゞ車は耐久性にすぐれているので、積極的に導入してきました。また高品質輸送を実現できるエアサスの標準化や燃費の良さもありがたいですね。ドライバーも乗り心地や居住性が良いので長距離運行でも疲労が軽減できる、と好評ですよ」

同社の主力車両であるギガの性能は、熊澤社長も大変満足されているようだ。

## 食の安全を担う物流事業者として品質向上と合理化、機能強化に取り組む

山形を拠点に食品専門の物流企業として事業を展開すること50年余り。同社は現状に満足することなく、つねに荷主企業の多様なニーズを先取りする中で、最高のシステムと組織づくりに努めてきた。最後に熊澤社長は、次の一手として、以下のように今後の展望について語られた。

「昨今、食の安全が消費者の関心事として注目を集めています。当社は、その一翼を担う物流事業者として、業務全般にわたる品質向上と合理化、そして機能強化に努めていく所存です。また今後も山形、仙台、名古屋の各拠点を有効に活用して、より柔軟に需要の変



「つねに先を見据えた事業を展開していくこと。そして臆することなく新しいことに挑戦する。これが先代社長より引き継がれてきた当社の事業方針です」(熊澤社長)

動に対応できる物流体制を構築していく方針です。さらに、それと並行して地域に根ざした物流サービスも創出して収益性を高めることで、企業体力の増強に取り組んでいきたいと考えています」

### 【取材メモ:経営戦略のポイント】

- ◎専門性を活かした付加価値の高い物流サービスを提供しています。
- ◎新たな事業にも積極的に挑戦し、経営基盤の強化に取り組んでいます。
- ◎コンプライアンス経営を実践し、経営リスクの防止と回避に努めています。
- ◎運行形態に合わせた車両を導入し、安全、確実な運行を実現しました。

### 【会社概要】

会社名:ベア・ロジコ株式会社  
 本社所在地:山形県天童市大字芳賀  
 字橋ノ城457-1  
 設立年月日:1954年11月  
 代表取締役社長:熊澤 貞二(くまざわ ていじ)  
 従業員数:78名  
 保有車両台数:73台



交通安全標語コンクールで「優秀事業所」を受賞しています。